

事業実施報告書

1 事業名 市長と話そう！みらいトーク

2 実施日 令和7年7月31日（木） 12時00分～13時00分

3 場 所 オンライン開催（Webex）

4 参加者

最大同時視聴者 27名

市長、秘書広報課長、秘書広報課調整幹、秘書広報課課長補佐、秘書広報課担当者

5 内容

- ・市政全般について
- ・市長2期目の重点施策について
- ・まちづくりに関する意見交換

6 懇談内容概要

(1) 仕事と育児の両立について

- ・市長自身も子育て中とのことだが、仕事と育児の両立で一番大変だと感じるのはどんなときか。忙しい中で、ご家族とどのような時間を大切にしているか。子育てをしているからこそ気づいた行政に足りないと思ったことは何か。

→市長の仕事は、週末にもあるので家族と休みが合わないことが多いが、一緒に食事を取る時間を大切にしている。

→仕事で市内のイベントに参加するという話を子どもにすることで、地域に関心を持ってもらいたいと考えている。

→小学校、中学校は市の管轄のため、小、中学生と直接話をしたり、反応を伺える機会があるが、高校生、大学生と意見を交換したり、お話をしたりする機会は少ないと感じている。若い方たちへ情報をうまく届けられるためにはどうすればよいのかを課題として考えていきたい。

(2) 市民・行政・民間の役割について

- ・市長公約には多様な主体の連携が出ているが、市民・行政・民間それぞれにどのような役割を期待しているのか。

→自身の経験から、職場と自宅の往復ばかりしていると、地域で何が起きてるか分からない。そうなると、地域がこうなってほしい、という思いも薄れてきてしまう。だから、情報の発信に力を入れたい。そして、発信した情報を受け取った市民の方たちが得意な分野で無理のない範囲で、行政に協力していただけたらよいと考えている。民間の方は、地域に貢献することで事業にも繋がってくると思うので、行政と市民ができない部分を経験や知見を活かして助けていただけるとありがたい。

例えば、何かイベントを開催したり、何かグループを立ち上げるとき、行政だけで進めてしまうと、市民の方が主体的にできなくなってしまうと考えている。理想は、市民と行政が最初の形作りのときに協力をし、市民のアイデアやアドバイスで大きくしていき、そこに民間の知恵が入る、という体制であると考えている。

(3) 地域間交流について

・様々な自治体との地域間交流が行われているが、今後、どのような交流を行いたいのか。
→和光市では、長野県佐久市、栃木県那須烏山市、新潟県十日町市、埼玉県東松山市と「災害時における相互応援協定」を結んでおり、様々な交流事業を行っている。
コロナ禍を経て、現状は、子供たちのスポーツ交流がメインとなっている。これからは、多くの市民の方に、交流都市はこのような場所で、このような事業や産業が盛んで、このようなことができる、という情報発信をしていきたい。

(4) 駅北口の開発について

・北口開発は将来の和光市のイメージを創る重要な事業だと考える。一方で、なかなかスピーディーに進まない点もあるのではないかと感じている。具体的なスケジュールと現在抱える課題があれば教えほしい。
→現在、当初の計画より遅れているが、確実に進んでいる。6年後くらいには駅前広場もできていく見込みである。
市民広場と、建物内に入れる市の公共施設については、市民の方から色々なご意見を伺いたいと考えており、ワークショップをこれから開催する予定である。具体的な日にちは未定であるが、そういった場面でもぜひご意見を頂けるとありがたい。

(5) 子育てしやすいまちにしていくための取り組みについて

・和光市を「子育てしやすいまち」にしていくために、今後特に力を入れていきたい取り組みは何か。特に、最近増えている発達に課題のある子どもや、不登校の子どもについて、どんな支援が理想だと思うか。
→市では4か月児、10か月児、1歳6か月児、3歳4か月児、5歳児の集団検診を行っていて、相談やお医者さんに診ていただける機会があるということを情報発信していきたい。
→発達に課題があるお子様については、早い段階で、療育などにつなげて解決していきたい。
→市の教育支援センターは、相談の件数が想定よりもかなり多いと伺っている。何か聞きたいときにすぐに聞ける場所であるので、教育支援センターにも力を入れていきたい。
→保護者の方が安心して働きに行けるように、朝の居場所作りや学童、わこうっこクラブを活用していただきたい。また、お子様がそこで経験したことを仕事から帰ってきた保護者の方とお話することで、親子のコミュニケーションが生まれるとよいと思う。

(6) コミュニティの活性化について

- ・コミュニティの活性化をあらゆる政策に取り入れるとのことだが、特に重視している分野はどこか。

→例えば、スポーツだと、同じスポーツの中ではお互いよくコミュニケーションがとれてるが、他のスポーツとの繋がりがなかったりする。例年10月に開催される、BOSAIフェアと同時開催のわこうスポーツまつりは、新しいスポーツをするきっかけにもなると思うので、是非参加していただきたい。

(7) 学校給食について

和光市では十日町市のお米や地域の野菜を使うこともあるなど、質の良い給食にこだわっている。そのグレードを落として給食費を抑えるべきなのか、それとも負担があっても現状を維持していくのかは、よく検討していく必要がある。

先日、農家の方が朝収穫したばかりのトウモロコシを小学校に届けてくださり、生徒たちがそのトウモロコシの皮を剥き、給食委員が調理して給食で食べる、という取り組みを行った。このような取り組みもあまり市民の方へ届いてないと思うので、来年からはしっかりと情報発信をしていきたい。

(8) 市長まとめ

これまでは、日中に市内の公共施設に出向き、そこに来てくださった方たちとの対面での座談会形式で開催していた。今回は、働く世代の方たちともと繋がりたいと思い、仕事の合間でも参加していただけるように、お昼休みの時間帯にオンラインで開催した。その結果、多くの方にご参加いただき嬉しく思う。

これからも座談会形式での開催、オンライン開催のどちらも行おうと考えている。また、時間も変えて開催していきたいと考えているので、お気軽にご参加いただき、行政に対する皆様の声を届けていただきたい。